

# 町長所信表明

## 「融和と調和」で「共生」社会の実現を



阿久比町長三期目に向けての私の所信の一端を述べさせていただきます、ご理解とご協力をお願いいたしますものであります。

私は平成二十二年十一月二十八日に執り行われました、町長選挙におきまして、町民の皆さまの温かいご支援により当選させていただきました、三期目を務めさせていただきますこととなりました。町民の皆さまや議員の皆さまに対しまして、町政の仕事をさせていただけに心より感謝申し上げます。皆さまから寄せられた負託の重みを厳粛に受け止め、多くの町民の皆さまのご意見を真摯に拝聴して、町政をあく重責と使命の重大さを痛感し、町民の福祉と阿久比町の発展のために、全力を挙げて町政運営に取り組んでまいります所存です。

竹内啓二町長は、十二月九日に開かれた平成二十二年阿久比町議会第四回定例会の冒頭で、三期目に臨む所信表明を行い、町政への思いと、これからのまちづくりの考え方を述べました。一部抜粋で掲載します。

昭和二十八年一月一日に町制施行をして初代榎本茂町長から数えて私は九代目の町長となります。今日の阿久比町の発展がありますのは、歴代町長はじめ、議員の皆さまと多くの町民の方々のたゆまぬご尽力とご苦勞の賜物によるものです。ここにあらためて敬意と感謝を表するものであります。

平成二十五年に、阿久比町は町制施行六十周年を迎えることとなります。先人の皆さまが、次世代のことを思い考え、努力をされ本町を今日の発展に導きくださったように、たとえ困難なことであつたとしても、私たちは次の世代のことを常に思い、「今」行っておかなければならぬことは「今」成し遂げていかねばなりません。そのためには争いではなく力を合わせるにより、より良い阿久比町の建設に邁進しなければなりません。町制六十周年には、先人の方々に見ていただいても恥ずかしくない、自慢できる阿久比町の姿にしておきたいものです。

「融和と調和」の上に成り立つ共生

の社会の実現を、町民の多くは望まれていると私は感じています。私たちは「虫供養」という郷土遺産を継承してきました。農耕によって犠牲にしてしまった、小さな虫の命にも哀れみと慈しみを持って供養する優しい心を持つては、他人を思いやる気持ちを大切に、町民一人一人が手を取り合つていかねばなりません。これからの自立したまちづくりには、住民の皆さまと行政がそれぞれの役割と責任を持ち、参画と協働し合うことが必要です。そうすれば「人の和」と「地域の輪」が広がり、「強い絆」となっていくものと信じます。

幸いにも町内では、防災、子育て、教育など自分たちの身近な問題を「まずは自分たちの手で解決してみよう」という機運が高まってきたように感じます。また、自分の仕事以外の場において、「人の役に立ちたい」と思われている方もみえると思えます。こういう方々が活躍できる、

機会や場を提供できればと思います。人は支え合つて生きています。人の役に立つことへの喜びの中に生きがいが見いだせるものと信じます。自立と共生の社会の実現には、人との信頼関係が成り立っていないなくてはなりません。その礎(いしずえ)は、他を認め合い、思いやる心であると思えます。

アインシュタインは「人は他人のために存在する。何よりもまず、その人の笑顔や喜びがそのまま自分の幸せである人たちのために。そして、共感という絆で結ばれている無数にいる見知らぬ人たちのために」と述べています。この言葉に私は強く心を打たれました。私自身今まで申し上げてきた精神のもと、町長の職務に専念し、町政に取り組んでまいります。よろしくお願い申し上げます。

現在阿久比町は名鉄特急が停車する町となり、利便性が良いことから住宅を求められる方が多く、人口は増加しています。新しい街並みも出て来つつある中であつて、三期目は、自然と調和した快適生活空間阿久比の建設に向けて次に掲げる施策の実現に努力してまいります。

### 健康で生きがいのあるまちづくり

少子高齢化の社会問題は、避けることのできない大きな問題です。本町の六十五歳以上の占める人口構成も二十二パーセントを超えました。